



小川小学校

HP:<http://ogawa-e.murakami.ed.jp>

小川小日記



伝統を引き継ぐ

校長 佐久間 義久



先輩が一から教えます。

3学期がスタートしました。授業日数は51日で、今日の時点ではすでに残り46日間、本当に3学期はあっという間です。その中で、こなすべき課題は多く、逆に、この期間の頑張りを通して子供たちは一段と成長し、進級・進学を迎えます。実に濃い3学期です。そして、その数ある大事な事の一つに、朝日三面川太鼓の引継ぎがあります。本番は2月21日（金）の『6年生を送る会』においてです。



では、朝日三面川太鼓の曲「川の章」「山の章」はいかにして生まれたのでしょうか。それは荃太小から三面小が太鼓活動を引継いだ2001年に遡ります。当時の三面小：柿沼芳枝校長の文章によれば「太鼓の活動を始める時に、一番の問題は指導者でした。（中略）小泉光司氏（新潟万代太鼓の創始者）を訪問し作曲と指導をお願いしたところ、快くお引き受けいただき三面小の曲が出来上がりました。曲は『一川の章』『一山の章』の2曲です。朝日村の豊かな自然、三面川の流れ、小鳥のさえずり等からイメージして出来上がったこの曲は、何度聞いても飽きることがありません。」とあります。「何度聞いても飽きることがない」は、まったく同感です。同様に思われる方も多いのではないのでしょうか。そこから歴史を重ね、今、小川小に根付いたわけです。でも、まだ伝統とは言えない・・・でも、さにあらず。子供たちの様子からはもはや伝統を引き継ぐといった心意気を感じられます。オーディションに望む姿や、既に始まった新メンバーによる全体練習、休み時間の自主練習と、素晴らしい姿は数多くあります。何より素晴らしいのは、指導者が先輩だということです。実は、両曲を叩けるのは子供だけです。



先輩が一から教えます。

昨年、村上市において「望ましい教育環境整備計画」の議論が進められる中、小川小も学校統合に向かう流れの中にあります。でも、この素晴らしい朝日三面川太鼓は、ゆくゆくは朝日の小学校の伝統となっていけるほどの可能性をもっています。令和7年も朝日三面川太鼓にどうぞご声援をお願いします。



荃太小『こぶし太鼓』から三面小『わかわゆ三面太鼓』へ。そして、小川小『朝日三面川太鼓』へと。

3年生 育てた蚕の繭玉を使って生き物を作ったよ

3年生は総合的な学習の時間の学習で蚕を育てました。その蚕が作った繭玉を使って、いろいろな生き物を作りました。朝日シルクフラワー製作工房の横井栄子様に作り方を教えていただきながら、自分で書いた設計図や見本作品を参考に、いろいろな色に染色しておいた繭玉を切ったり貼ったりして、楽しく作っていました。基本的な作り方は教わったのですが、各自が切り方や貼り付け方を工夫して、次々とかわいい生き物を作っていく子どもたちの発想力の豊かさは見ていて楽しかったです。朝日地区の文化祭にも展示していただいたので、作品をご覧になった方もいると思います。地域の伝統である繭玉工作を大切にする心をもってくれることを期待しています。



1・2年生 クリスマス会をしました

12月に、1・2年生がいつも英語活動を教えていただいている英語専科の相馬先生、ALTのローラン先生とクリスマス会をしました。最初にローラン先生から、アメリカのクリスマスの過ごし方や様子などのスライドを見せていただきました。次に先生方が子どもの頃に欲しかったプレゼントのクイズをして盛り上がりました。最後に、靴下のイラストが描かれたクリスマスカードにそれぞれが欲しいプレゼントを記入しました。本場のアメリカの様子がよく分かって楽しそうでした。欲しいプレゼントがもらえるといいですね。



大きく育て！鮭の稚魚たち～4年生総合的な学習の時間より～

4年生は、総合的な学習の時間で、村上特産の「鮭」について学習しています。その一環として、12月には、三面川第3孵化場の見学に行き、卵の採取の様子などを見学してきました。今年は三面川に上ってきた鮭の数が大変少なかったと聞きましたが、貴重な卵をイヨボヤ会館からいただき、大切に育てています。受精卵の中にだんだん黒い目が見えてきた様子に、面白さと驚きを感じながら、生命の大切さについて学んでいます。今後、稚魚が大きくなった3月下旬頃には、三面川に放流する予定です。

地元の特産として昔から大切に育てられている歴史ある鮭の学習を通じて、ふるさとへの誇りと愛着を感じ、ふるさとを大切に思う気持ちも育てていきたいと思っています。

